

<紙碑> 栗原正見氏のご逝去を悼む

清水, 靖夫 / SHIMIZU, Yasuo

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

47

(開始ページ / Start Page)

79

(終了ページ / End Page)

79

(発行年 / Year)

2015-03

【紙碑】

桑原正見氏のご逝去を悼む

桑原正見氏が昨平成26（2014）年8月20日、彼岸の地に旅立たれた。享年80歳、奥様が先年旅立たれ、早くお会いになりたかったのかも知れない。

桑原氏は福井県出身、昭和28（1953）年4月法政大学文学部地理学科に入学され、31年4月、大学院修士課程に進まれている。いくつかの大学の非常勤講師を勤められた後、昭和36（1961）年5月より平成12（1990）年3月に到る38年11ヶ月の間、武蔵野女子学院中学高等学校で教職に就かれ、主として理科（地学）を担当されていた。晩年平成5（1993）年59歳の時パーキンソン病を発病されたが、持ち前の努力で定年まで頑張られた。また専攻された陸水学との関係から、多摩川や府中の森関連の施設と関係を持たれ、定年後も法政大学地理学会の会合その他、病気で不自由になった体をおして出席されていた。

桑原氏とはじめてお目にかかったのは、法政大学に入学して暫くしてからであった。氏はストレートで入学し、私は二浪して入学したので、学年と年齢が逆であったが、氏の地理学に対する真摯な姿は頼もしく思われた。その頃、桑原氏の同級には戸島正雄氏、その上には中村宗敏氏、岡永亮八郎氏はじめ多才な方々が居り、学内に一時あった「地域実態調査会」の活動（まもなく法政地理学会に吸収）などで活躍された。また当時、都内の大学の地理学科の学生同志の任意団体「東京地理学生懇談会」で、お互いの学校での講座や勉強状況話し合い、岡山先生に飯能への巡検をお願いしたこともあった。氏は常に法政大学地理学会での世話役の一人として活躍された。

氏の住居は当初法政大学へ一本で行ける中央線の大久保駅近くの柏木3丁目（現北新宿1丁目）



のアパートに居住され、私の家から500m程のところでもあり、また私の母が桑原氏と同じ福井県出身ということもあり、親しくさせていただいた。また、氏の陸水学の指導教官でもあった三井嘉都夫先生との関係から、近くの資源科学研究所でお手伝いもされていた。

氏と最後にお目にかかったのは三井先生の葬儀で、御無理されながら参列されていた。なお桑原という姓の戸籍上の文字は桑原であったが、氏は殆ど桑原で通された。

氏の経歴の一部は御息女陽子様からの御教示に依った。

桑原正見氏の御冥福を祈る次第であります。

2015年1月

清水 靖夫

注) 文脈上、一部桑原の姓を桑原と記してありますが、ご容赦ください。